

かわさき福寿手帳の見直しと 新たな高齢者外出支援施策



川崎市健康福祉局高齢者在宅サービス課

かわさき福寿手帳の概要

かわさき福寿手帳とは・・・

市内在住65歳以上の方に、心身ともに健康で明るい生活を続けていただくため、高齢者に関わりのある相談窓口、制度、サービス、施設、優待施設などを知っていただくために発行しています。



かわさき福寿手帳の概要

かわさき福寿手帳の内容

☺高齢者に関する相談窓口、制度、サービス、施設についての案内

☺優待施設の案内

（主な優待施設：市内の公衆浴場、日本民家園、伝統工芸館、青少年科学館、
岡本太郎美術館）

☺優待施設用の入場優待券

☺救急情報連絡票

（救急時に、持病、服薬等の情報や緊急連絡先等がわかるよう、連絡事項が記載できるページ）

かわさき福寿手帳の概要～利用者の声～

◎事業見直しにあたり、令和6年8月～10月にかわさき福寿手帳のアンケート調査を実施した。

調査対象	回答方法	質問内容
・令和6年8月送付分かわさき福寿手帳新規交付対象者 ・市内公衆浴場（寿恵弘湯、今井湯、松葉浴場）	・オンライン ・FAX ・対面 ・区役所提出	・かわさき福寿手帳の使い方について ・他の媒体にする場合何がいいか ・優待カードが外出につながると思うか

◎回答数（全108件）

回答場所	回答数
オンライン	37
寿恵弘湯	31
今井湯	21
松葉浴場	17
FAX	1
区役所提出	1
合計	108

かわさき福寿手帳の概要～利用者の声～

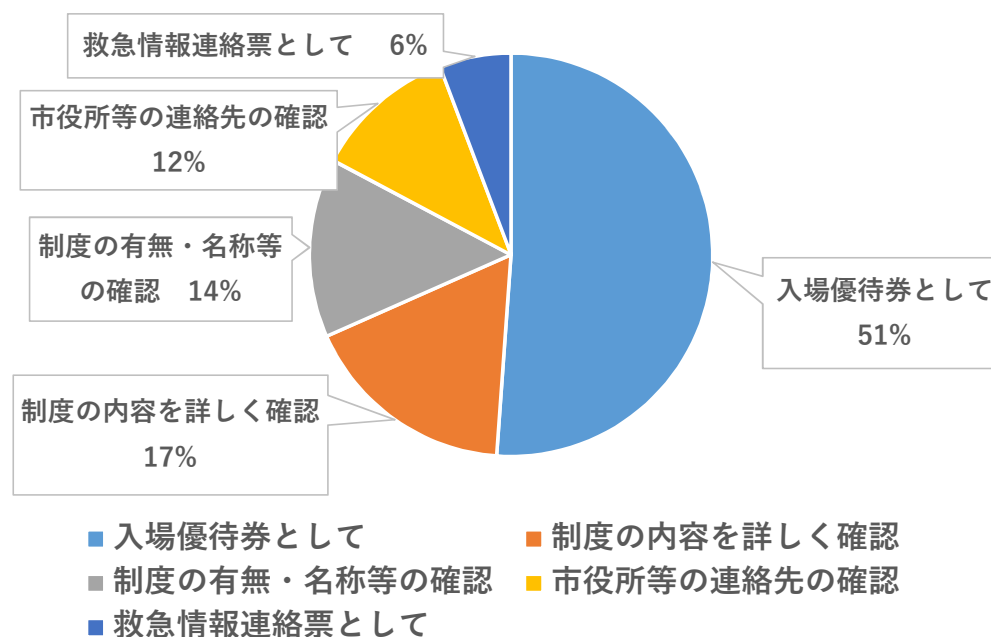
回答結果①かわさき福寿手帳の使い方

「**入場優待券として**」の回答が最も多い結果となったが、制度の確認や連絡先の確認、救急情報連絡票として使っている・使いたいという回答も一定数あった。

【回答内訳人数】 ※複数回答可

入場優待券として	89
制度の内容を詳しく確認	30
制度の有無・名称等の確認	25
市役所等の連絡先の確認	20
救急情報連絡票として	10

【回答内訳割合】



かわさき福寿手帳の概要～利用者の声～

回答結果②他の媒体にする場合

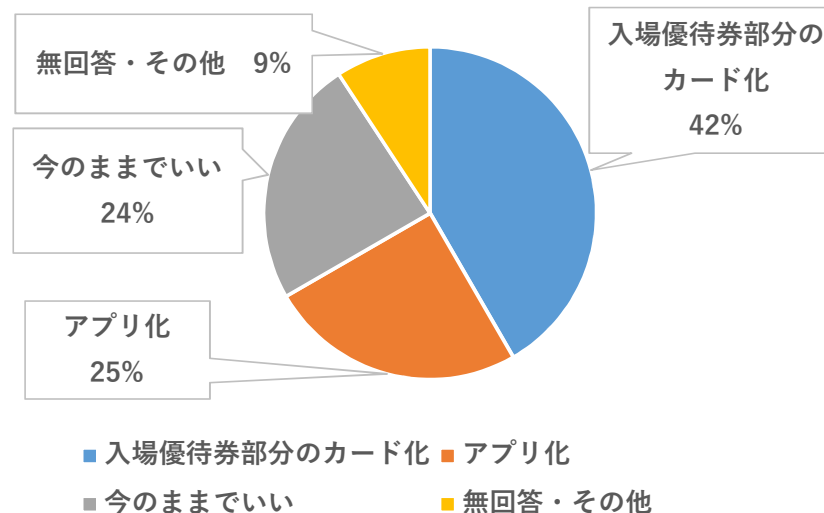
入場優待券部分のカード化が最も多い結果となった一方、「アプリ化」や「そのままでもいい」等も一定数回答があった。また、「アプリ化」の回答をした27名のうち、23名がオンラインで回答した方であり、公衆浴場での回答者は、「カード化」や「そのままでもいい」の回答が9割を占めている傾向であった。

【回答内訳人数】

入場優待券部分のカード化	45
アプリ化	27
そのままでもいい	26
無回答・その他	10

その他の主な回答：マイナンバーカードの活用
カードと手帳と併用 等

【回答内訳割合】



かわさき福寿手帳の概要～利用者の声～

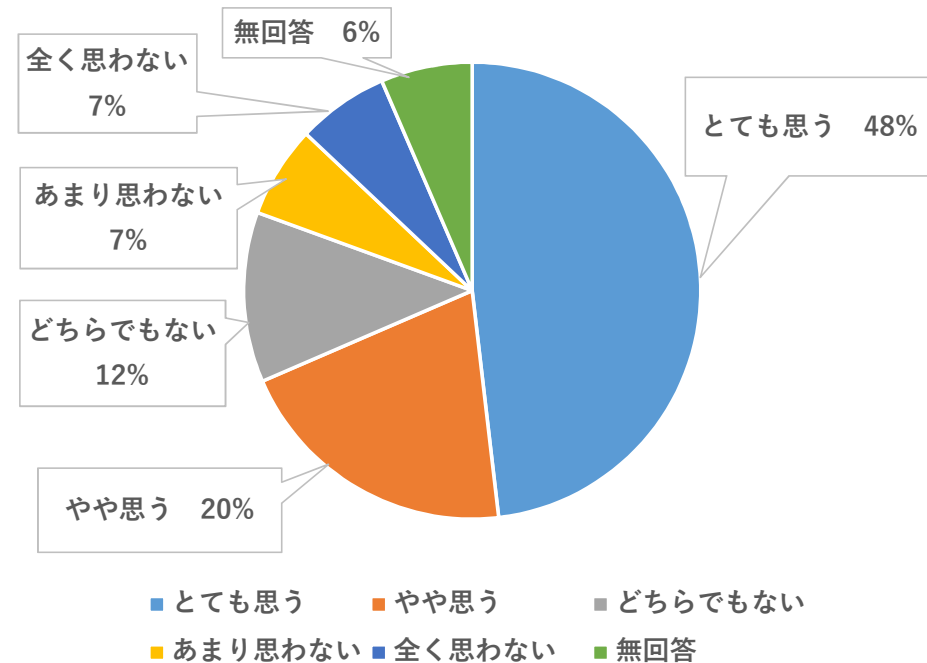
③優待カードが外出につながると思うか

「とても思う」、「やや思う」が全体の約70%を占める結果となった。

【回答内訳人数】

とても思う	52
やや思う	22
どちらでもない	13
あまり思わない	7
全く思わない	7
無回答	7

【回答内訳割合】

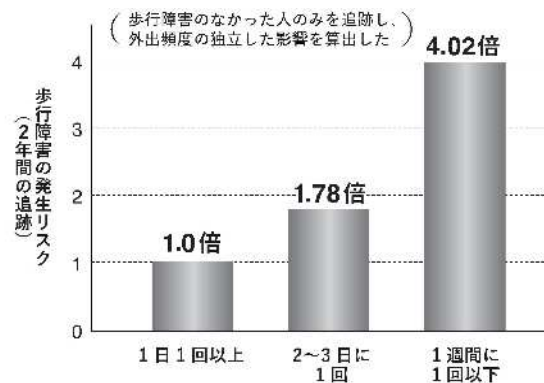


課題として・・・

- ・かわさき福寿手帳に掲載している情報は、市ホームページ、「高齢者福祉のしおり」でも確認することができる。
- ・新たに65歳になった方等に1回のみの送付のため、所有している手帳の情報が更新されない。※区役所等に行けば、最新版の手帳は随時交付可能。
- ・「入場優待券」をカード化やスマホで使えるなど便利にしてほしいという声もある。
- ・高齢者人口が増大する中、一人でも多くの高齢者が健康でいきいきと暮らせるよう、外出や社会参加が重要であり、かわさき福寿手帳の優待施設拡大と利便性向上により外出支援機能を発展させることが求められる。

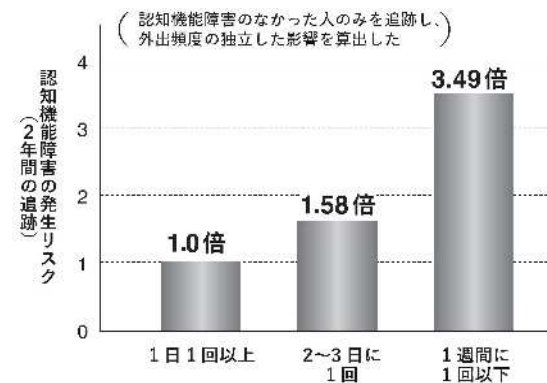
なぜ外出なのか？

外出頻度と歩行障害の発生リスク



出典：新聞省「高齢者のリスク調査」について教えてください；
老人研NEWS NO.219 2007：002

外出頻度と認知機能障害の発生リスク



出典：新聞省「高齢者のリスク調査」について教えてください；
老人研NEWS NO.219 2007：002

- ・ 外出頻度が週1日以下の人は、毎日外出する人に比べて歩行機能低下リスクは4倍、
認知機能低下リスクは3.5倍になる。（独立行政法人東京都健康長寿医療センター2007）

⇒ 高齢者が元気に暮らすためのキーワードとして「外出」

高齢者の外出促進に関する過去の調査事例

①調査概要

川崎市高齢者外出支援乗車事業のICカード（PASMOやSUICA）を活用し、新たな社会参加施策の実証実験として「かわさきイキイキとくとくウォークラリー」を実施。

内容：ICカードを使用したウォークラリー。商店街の店舗や駅の拠点に設置した端末にタッチし、店舗での買い物割引を受けつつ、定められた拠点にタッチした場合は、抽選によるプレゼントを付与することで外出を促進できるか検証を行った。

期間：令和5年11月7日（火）～12月6日（水）

場所：川崎南河原銀座商店会、協力店舗（8店舗）及び
JR川崎駅、ホテルメトロポリタン川崎、ジェクサー川崎等

②結果 総参加者数117名、総タッチ数320回

③分析及び課題

・ 健康向上及び優待・特典が実証実験への主な参加理由となっていたことが分かり、このような施策が外出促進の動機づけになることが分かった。

・ 一方で、同様の取組を継続的に実施する場合、実施場所の選定・協力依頼、優待・特典等の設定、周知・広報に関して、一定の人的労力及びシステム処理の費用が掛かることが分かった。また、投入する労力・時間・費用に対して十分な実施結果（利用回数や外出頻度の増加等）を達成することのハードルが高いことが分かった。



高齢者の外出促進施策 他都市事例

①外出を促進するカード事業 (横浜市「濱ともカード」、さいたま市「シルバーカード」等)

外出を促進し、健康増進を図るために・・・

◎65歳以上の市民にカード(記名式)を発行。

◎飲食店や趣味、学び、レジャー、小売店等の幅広い種類で、高齢者の外出促進・健康増進という事業趣旨に賛同する協賛店を募る。

◎高齢者は協賛店で、商品・利用料の割引などの優待を受けられる。

◎協賛店を「高齢者に優しい店」として紹介するパンフレットの配布やHPを作成する。

⇒カードは幅広い高齢者に扱いやすく、作成コストも低いですが、カードを利用した回数の把握が課題。協賛店の負担も増やしたくない。

情報発信機能としてはカード単体では難しいため、QRコードを付けるなど、別途検討が必要。その一方で、カードの裏側に救急情報連絡票機能を設けるなどは検討可能。

高齢者の外出促進施策 他都市事例

②外出支援・社会参加アプリ (世田谷区「オンライン通いの場アプリ」、渋谷区「ハチさんポ」)

外出を促進し、健康増進を図るために・・・

◎散歩コース、体操動画、脳トレ、食事チェック、健康チェックなど
多様な機能を搭載。

◎特定の場所や活動にポイントを付与し、ポイント集めを楽しみながら、
外出や社会参加を促進できる。

⇒かわさきTEKTEK等のウォーキングポイントアプリなど、市内で様々なアプリがすでにリリースされており、乱立・重複してしまう。アプリが使えない高齢者には使えない。アプリの開発・維持費用、読取方法等や救急情報連絡票をほかの媒体で用意する必要があることが課題。
その一方でアプリ内に情報発信機能を付けるなどカスタマイズが可能。

事業者の皆様にお聴きしたいこと

前スライドで示した課題や高齢者の外出促進施策の事例を踏まえ、

①高齢者の外出を促進するための 効果的な事業スキームやアイデアのご提案

65歳以上の様々な年代の方が利用することを前提として、カード化やアプリ化、その他のICT技術の活用など、高齢者の外出・社会参加を促進する効果的な事業スキームやアイデア、そもそも高齢者の外出を誘引するためには何が必要か、どのような視点で施策展開するのがよいか助言いただきたい。

②事業の効果測定の方法

外出支援の効果を見える化するため、事業がどれだけ利用されたか、どれだけ外出に繋がっているか等を検証できる方法

事業者の皆様にお聴きしたいこと

③効率的な利用者データ収集の方法

新事業の展開にあたっては、様々なデータ（利用者の属性・動向・使用場所・頻度等）を活用し、施策に反映していきたいと考えているが、そうしたデータを効率的に取得できる方法等があれば、お伺いしたい。

※考えられるものとしては、アンケート、アプリを活用したデータ抽出等が挙げられる。

④高齢者の制度周知等に関する効果的な情報発信方法やアイデアのご提案

かわさき福寿手帳は更新版を送付しておらず、他の媒体（高齢者福祉のしおり）との重複等、様々な課題がある中で、高齢者の方にどのように制度周知するのが効果的かアイデアがあればご提案いただきたい。